



# 医学部だより

第32号

2016.4.1



## 英語力の重要性 ～目指せTOEFL80点～

医学部長 苛原 稔

入学試験において英語の試験は必須であり、その成否は合否に関係する。今年も難関の入学試験を突破した新入生が希望に満ちてキャンパスに来ているが、当然、一定レベルの英語能力を持っているので入試に合格したのであろう。日本の大学入試レベルの英語は読み書きに関しては、一定水準にあると言われている。

さて、近代化前の欧米で学問の基本的な言語がラテン語であったように、現代世界においては学問の共通語は英語である。さらに、国際的なコミュニケーションのための言語も、最近では英語になっている。そのため、学問の世界における発表や討議も、理科系文科系を問わず、英語によるコミュニケーションが一般的となっている。すなわち、英語は教養ではなく、仕事するツールになっている。私たちがスマホを持つように、コンピュータを駆使するように、英語は誰もが、もちろん上手と下手は別として、共通で使える道具にみなされ始めている。特に、コミュニケーションを取るための道具として、読み書きのみでなく、聞く話すも一定の水準に引き上げる必要がある。大学での学習の大きな目標の一つは、専門の学問の習得とともに、英語能力のブラッシュアップをする必要がある。

医学部では国際化を推奨する一環として、医学科、医科栄養学科、保健学科を問わず、学部生に対して海外への短期留学の支援を行っている。短期留学先はそれぞれの提携校であり、テキサス大学、フロリダアトランティック大学、ハノーバー医科大学、ソウル大学などに数名ずつ、1～2か月間、学部学生を

派遣している。学生時代に短期ではあるが外国の大学教育に触れることはとても有意義なことである。また、それぞれの専門教育に国柄や大学の違いがあることを理解することも重要である。その後のそれぞれの領域での学習モチベーションの維持にとっても良い影響をもたらしている。費用が発生するので、全ての学生を派遣できないが、是非、募集に対してチャレンジしてもらいたい。

最近、この派遣に関して問題が大きな壁ができてきている。それは、多くの行きたい提携校が、受け入れ学生の英語能力を一定の水準以上に規定し始めたのである。特に、TOEFLで何点以上との必要性が示されることが多くなっている。日本人の学生は大学入試レベルの読み書きはある程度できて、聞く話すを合わせて試験がある TOEFL で良い点を取るのとはなかなか勉強が必要である。しかし、やれば成績は上昇する。特に、若い学生たちにはのめり込むことでぐんぐん成績が上がるようである。我々も勉強ツールを用意して支援をしているので、それらを利用して取得してほしい。

これらの提携先から要求されるのは TOEFL 80 点という結構ハードルは高いが、可能な水準でもある。頑張ってもらいたいと願っている。もちろん、短期留学は手近な目標であるが、必ずや将来の医療従事者としての職業遂行や海外への長期留学に役に立つと思われる。国際化は当然の方向である。頑張ってもらいましょう。

### 目次

### CONTENTS

巻頭言	1	寄附講座『糖尿病・代謝疾患治療医学分野』紹介	10
新入生のみなさんへ	2	医学部サッカー部天皇杯初出場・全医体2連覇	11
先輩から医学部紹介	4	医学部柔道部全医体初優勝	11
学友会活動	5	新任教職員あいさつ	12
医学部行事予定	5	新任准教授紹介	12
私が取り組んできたグローバル化について	6	退職者ご挨拶	12
徳島医学会報告	7	受賞者紹介(教員)	13
第62回徳島大学解剖体慰霊祭	7	受賞者紹介(学生)	14
蔵本祭	8	編集後記	14
数字で見る医学部	9		



## 新入生の皆様へ

医学科長 安友康二

この度はご入学おめでとうございます。徳島大学医学部医学科は60年を超える歴史があり、その間に育った卒業生は国内外の医療現場で活躍しています。60年の間、多くの変遷がありましたが、近年の大きな変化は建物です。皆さんがこれから医学を学ぶために使う医学科の建物は、この数年間の間にほぼすべて一新され、教育環境は大きく改善されました。また病院の外來棟も昨年度に完成し、それに加えて医学研究を行うための機器の充実も目覚ましいで

す。また、建物の変化だけではなく、学部生時代の海外留学のシステムをはじめとして医学を学ぶためのカリキュラムも多様な医療に対応できるように変化しそして進化してきています。皆さんは、そのような恵まれた環境で医学部生として6年間を過ごすことができます。もちろん、与えられた環境を最大限に生かせるかどうかは、皆さん次第です。目的意識と積極的な態度を持って勉学に励み、医学者として大きく成長するための素地を養ってください。



## 新入生の皆様へ

医科栄養学科長 二川 健

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。私が大学に入学したのは、1981年（昭和56年）ですので、皆さんとは比べるべくもないほど大昔の出来事ですが、「大学での講義についていけるだろうか?」「友達ができるだろうか?」といった入学当初の期待と不安で胸が張り裂けるような気分は同じでないかと思います。しかし、全く心配ございません。皆さんの大半の方とは、一度面接でお目にかかっています。どの方も素直で成績も優秀な方々ばかりでしたので（だから入学できたのですから）、自信をもって学生生活をスタートしてください。医科栄養学科は、医学を基盤とした栄養学を標榜して医学に強い管理栄養士の養成を目的として、2年前に栄養学科から改組しました。皆さんのための高度

な知識の学舎（まなびや）となるとともに、社会人としての人格を形成する最後の修練の場を提供しています。皆さんは、医学や栄養学の知識の習得だけでなく、医療人としての人間力をしっかり磨いてください。ただし、あまり力まずに学生生活を楽しむということも忘れずにいてください。かく言う私も、徳島大学医学部を卒業したというより、徳島大学剣道部を卒業したというほど、クラブ活動に熱中し学生時代の成績は芳しくなかったのです。でも、クラブ活動で磨いたコミュニケーション能力が今とても役に立っていると感じます。私は、皆さんの1年目の専門科目の一つ「人体構造機能学」の講義を担当しております。最初の講義は、毎年自己紹介をしてもらうことにしております。皆さんの大学生生活の夢や希望を聞けることをとても楽しみにしております。



## 新入生の皆様へ

保健学科長 近藤和也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは保健学科15期生になります。将来の職業として、看護師、保健師、助産師、養護教諭、診療放射線技師、臨床検査技師を希望された方々と思います。医療は日々進歩していますので、皆さんが習得すべき知識、技術、知恵は多くなっています。まずは、大学で“生涯学習する習慣”をつけてください。私たちの大学は、四国地区の国立大学で唯一、学部から大学院博士課程まで一貫した教育体制が整っています。①高度専門職医療人の育成、②国際的に活躍できる人材の育成、③地域医療への貢献を3つの柱として挑戦しています。学部卒業後は、大学院博士前期（修士）課程（2年）と大学院博士後期課程（3年）が設置され、専門看護師、助産師、養護

教諭（専修免許）、放射線治療専門診療放射線技師、医学物理士、超音波検査技師等の高度専門医療人を育成する最高の環境があります。ロクシン教授（前フロリダ・アトランティック大学の教授）を中心に、英語よる看護学の授業や International Nursing Basic Course（海外で看護師として働きたい学生や海外留学を希望する学生の教育）を立ち上げ、フロリダ・アトランティック大学（米国）やヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学（フィンランド）と学術交流し、短期留学を行っています。昨年2月から地域医療人材育成分野（寄附講座）が設置され、四国中央病院と提携し、地域医療に貢献できる看護師を育成しています。これからの大学生活は、皆さんの将来の“夢”を決める期間です。教員の方々や先輩の方々に何でも聞いてください。精一杯楽しんでください。

## 新入生の皆さんへ

### 医学科4年次 田中 大基



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。医師への第一歩を踏み出した皆さんは、おそらくこれから始まる新生活に期待と不安を抱えていることでしょう。大学ではこれまでと異なり、皆さんには大きな自由と責任が与えられます。

この自由とどう付き合うかが、一生の中で大きな役割を果たすことになるでしょう。おそらく皆さんには「大学生になってやりたいこと」がたくさんあると思います。勉強、部活、恋愛、趣味などあらゆることに積極的に取り組んでいってください、それら一つひとつの経験が将来の皆さんを形づくりします。

私もようやく大学生活の折り返し地点を過ぎたばかりですが、これまでを振り返って、一つだけ言えることがあります。それは「やらぬ後悔よりやる後悔」ということです。私はこの「やる」を「決断」と捕らえています。どのような選択肢であれ自分で決断すること、それを自認することはどのような結果となっても成長につながるのだと感じています。他人や時間が道を狭めてしまう前に、自分で決断してください。たとえ選んだ道が他人の敷いたレールでも、あなたの決断であればあなたの道です。

新しい事を学び、新しい場所に行き、新しい人と出会い、新しい発見をしてください。皆さんにはそれが出来る自由と能力があります。そして困ったことがあれば私たち先輩や友人、先生を頼ってください。皆さんが一生の礎となるような大学生活を送られることを願っています。

### 栄養学科4年次 末政 直哉



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。多くの方が新たに始まる大学生活に胸踊らせながらも、環境の変化に不安を抱えていることでしょう。しかし大学生活では変化を恐れずに様々なことにチャレンジしてほしいと思います。大学生活では多くの時間があり、学生のうちだからこそ出来ることがたくさんあります。皆さん大好きなミッキー・マウスの生みの親、ウォルト・ディズニーも「現状維持は後退」という言葉を残しているように、保守的にならず新たなことにトライすれば、自然と有意義な大学生活を過ごせると思います。さらに積極的にチャレンジするなかで、成功や失敗を経験し、成長していけることでしょう。

また大学では様々な人との出会いが待っています。学科や部活、バイトなどを通じて幅広い交流がありますが、人との関わりを大事にしてほしいと思います。楽しい時間を共有することはもちろん、周りから刺激を受けて学ぶことも多いはず。そしてまずは先輩から多くの事を教えてもらい、これからの大学生活の糧にしてほしいと思います。新たな仲間や先輩、後輩と過ごした時間は大学生活だけでなく、これからの人生において大切な宝物になるはず。最後に、今の志しを維持することは簡単ではありませんが、初心を忘れず、少しでも目標に近づけるように頑張ってください。皆さんが様々な出会いに恵まれ、大学生活が充実したものになることを願っています。

最後に、今の志しを維持することは簡単ではありませんが、初心を忘れず、少しでも目標に近づけるように頑張ってください。皆さんが様々な出会いに恵まれ、大学生活が充実したものになることを願っています。

最後に、今の志しを維持することは簡単ではありませんが、初心を忘れず、少しでも目標に近づけるように頑張ってください。皆さんが様々な出会いに恵まれ、大学生活が充実したものになることを願っています。

### 保健学科看護学専攻4年次 栗栖 達也



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生になるということへの期待を胸に、高校を卒業し自由な時間を満喫していたことでしょう。私も大学生になり毎日遊び切るといふ思いで入学してきました。実際に大学生活は楽しく、勉強や部活だけでなく様々な経験を積むことができると思います。看護学専攻では1年生のときから専門科目を学び、病院実習などの実習を行います。遊び切るためにはonとoffの切り替えが重要だと思います。大学のテスト期間では高校よりも科目数が多く苦勞しますし、レポートなどもあります。だからこそ時間があるときを有効に使って欲しいと思います。さらにこれから一人で生活していくために自分で物事を決める決断力、分別などが必要となります。きっと大学生活は自分たちが思っているようなものではありませんが、楽しく充実したものになると思います。これから4年間楽しんでください。

実際に大学生活は楽しく、勉強や部活だけでなく様々な経験を積むことができると思います。看護学専攻では1年生のときから専門科目を学び、病院実習などの実習を行います。遊び切るためにはonとoffの切り替えが重要だと思います。大学のテスト期間では高校よりも科目数が多く苦勞しますし、レポートなどもあります。だからこそ時間があるときを有効に使って欲しいと思います。さらにこれから一人で生活していくために自分で物事を決める決断力、分別などが必要となります。きっと大学生活は自分たちが思っているようなものではありませんが、楽しく充実したものになると思います。これから4年間楽しんでください。

### 保健学科放射線技術科学専攻4年次 三原 由樹



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学での新しい生活に、期待されていることと思います。本専攻では講義と実習があり、高校までの一般的な教育とは一味も二味も違う「専門教育」を受けられます。さらに、三年次の後半には研究室配属も行われ、より密接に先生方や大学院生の方たちと交流できる時間も増え、自分の意欲次第では大学院進学への道も拓けてきます。診療放射線技師は、画像診断や放射線治療など、近年の医療を支える重要な部分を担っています。CTやMRIなどの最新鋭の医療装置を操作している将来の自分を想像して、共に切磋琢磨して学びましょう。

さらに、三年次の後半には研究室配属も行われ、より密接に先生方や大学院生の方たちと交流できる時間も増え、自分の意欲次第では大学院進学への道も拓けてきます。診療放射線技師は、画像診断や放射線治療など、近年の医療を支える重要な部分を担っています。CTやMRIなどの最新鋭の医療装置を操作している将来の自分を想像して、共に切磋琢磨して学びましょう。

### 保健学科検査技術科学専攻4年次 中川 裕美



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これからはじまる大学生活に希望と不安を抱えていることと思います。本専攻では、一年次に一般教養を、二年次以降は主に専門科目を学びます。

学年が上がるにつれ忙しくなりますが、勉強するときは勉強する！とけじめをつけられれば自分の時間を確保できます。また、大学では様々なことに取り組んでほしいです。部活動や阿波踊り、ボランティア、アルバイトなどで興味関心を増やして、自分は何が好きで何がしたいのか、どうありたいのかなど、自分自身を見つめる良い環境であると思います。友人ともたくさん遊んでいっぱい思い出をつくってくださいね。四年間はあっという間です。自分にとってプラスとなるような大学生活が送れるよう応援しています。

# 先輩から医学部紹介

🌸🌸🌸 新入生のみなさんご入学おめでとうございます 🌸🌸🌸

## 講義について

栄養学科4年次 野口実和

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんに講義について紹介する機会をいただき光栄に存じます。

大学1年次の大半は常三島で教養教育科目を受講します。なかでもメインとなる教養科目は「歴史と文化」「人間と生命」「生活と社会」「自然と技術」の4つに分けられており、その他にもウェルネス総合演習(保健体育)を含む社会形成科目、語学や情報科学を学ぶ基盤形成科目、統計や化学・基礎実験などを行う基礎科目など、多くの分野の授業が存在しています。教養教育科目は蔵本の学生だけでなく、常三島の学生も受講しているため、ここで友達の輪を広げる人も少なくありません。

また、蔵本で受講する専門科目も週1~2日程度開講されます。学科によって内容は異なりますが、学科単位等で講義や実習、実験などを行います。私はこの週1日の専門科目を楽しみにしていたほどで、自分の興味のある分野の講義を受けるというのはこの上なく至高の時間でした。

大学の講義で今までと異なってくるのは時間割

を個人の好きなように決めることが出来る点です。自分の興味のある講義を受講したり、各講義の成績の評価方法で判断したり、個人で選択方法は異なると思います。その分、1年次は時間の自由度が高く、自分の挑戦したいことにも気軽に手を伸ばすことができます。皆さんが様々なことにチャレンジし、実りある学生生活を送ることができるよう、願っております。



## 部活動・サークル活動について

保健学科4年次 小野川 晃太

部活動・サークル活動について紹介します。大学に入学して、思い浮かべることと言えば、「部活動・サークル活動」ではないでしょうか。

私は新入生の皆さんが、部活やサークルの何かしらに入ることをお勧めします。大学生活は部活・サークルに入ると入らないでは大きく変わってきます。部活・サークルに入ると他学科の人と知り合うきっかけになり、交友関係が大きく広がります。同級生だけでなく、先輩や後輩とも仲良くなれます。また活動日や活動頻度などは部活・サークルによって様々

です。部活動ならば練習時間も増え、休日には試合や遠征などがあります。本格的にスポーツがしたい人にお勧めです。サークル活動ならば部活動よりは活動日が少ないのですがその分時間に余裕が持てるので、何か他のことに打ち込んだり、他の部活・サークルに掛け持ちして入っている人もいます。また、部活やサークルの運営を自分たちでしなくてはならないので自分自身の成長にもつながるのではないのでしょうか。

大学には多くの部活・サークルがあるので初めのうちはどこに入ればいいのか迷うことと思います。そんな時は、まずは気になった部活・サークルにどんどん見学に行ってみましょう。その部活・サークルの経験がなくても大丈夫です。また、四月の新歓の時期は多くの部活が花見やバーベキューなど様々なイベントも行っているのもそれも行ってみるといいと思います。色んな部活動・サークル活動の見学に行ったほうが、選択肢が広がり様々な人と出会うことが出来るので是非足を運んでみて下さい。

新入生の皆さん、ぜひ部活やサークルに入って充実した大学生活を送りましょう。



## 大学生協について

医学科4年次 三木将裕

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。早速ですが、みなさんが大学生活を充実させるのに欠かせない生協について紹介させていただきたいと思います。

蔵本キャンパスには、食堂の「さくら」、本・文具を取り扱う「しょこら」、コンビニの「らくら」、カフェテリアの「くらら」があります。

「さくら」は平日8時～20時まで営業しており、朝昼晚いつでも利用できます。食事は栄養バランスが良く、おいしいものばかりです。また、限定メニューも多いので飽きることなく毎日通えます。要望にも応えてくれるので、積極的にリクエスト用紙を出してみてください。



「しょこら」では、講義で使う本や文具をそろえることができます。でも、それだけではありません。自動車教習所の申込み、旅行の手配、帰省の際のバスの申込みなどもできます。

「らくら」では、食料品、雑貨などが購入できます。特に、お菓子の品ぞろえが充実していますので、小腹がすいた時に利用してはいかがでしょうか。

「くらら」では、お弁当や飲み物が販売されており、すぐそばのカフェテリアスペースで食べることができます。このカフェテリアスペースは学部を超えていつもにぎわっています。「くらら」で新しい友達ができるかもしれません。

簡単ですが、生協について紹介させていただきました。生協は大学生の心強いパートナーです。ぜひ、生協をフル活用して、楽しい大学生活を送ってください。

## 学友会活動

### ●運動部

	クラブ名	助言・指導教員
1	水上競技部(男女)	二川 健
2	弓道部(男女)	丹黒 章
3	硬式野球部	北川 哲也
4	柔道部	永廣 信治
5	空手道部(男女)	丹黒 章
6	卓球部(男女)	香美 祥二
7	バドミントン部(男女)	土井 俊夫
8	サッカー部	高橋 章
9	ゴルフ部(男女)	苟原 稔
10	バスケットボール部(男女)	川人 伸次

### ●文化部

	クラブ名	助言・指導教員
1	ジャグリングサークル	渡辺 浩良
2	軽音楽部	橋本 一郎
3	茶道部	竹谷 豊
4	地域医療研究会	谷 憲治
5	栄養学研究部	宮本 賢一
6	外国語研究会	福井 清
7	室内楽同好会	赤池 雅史
8	TIFMSA(徳島国際医学学生連盟)	赤池 雅史
9	先端医療研究会	佐田 政隆

※入部等のお問合せについては、医学部学務課学生係 (☎088 - 633 - 7982)へ連絡してください。

### 医学部行事予定 (平成28年4月～平成28年9月)

4月4日(月)～8日(金)  
医学部新入生オリエンテーション  
SIH道場～アクティブ・ラーニング～  
医学科、医科栄養学科、保健学科

4月5日(火) 学生定期健康診断  
医学科・医科栄養学科1年次

4月6日(水) 徳島大学入学式  
医学部新入生オリエンテーション  
(13:30～大塚講堂)

4月7日(木) 学生定期健康診断  
保健学科1年次

4月9日(土) 医学部新入生研修  
(於：大塚講堂ほか)

4月11日(月) 新入生授業開始  
医学科、医科栄養学科、保健学科

4月22日(金)～28日(木)、5月9日(月)  
学生定期健康診断  
医学科・医科栄養学科・保健学科2年次以上

8月6日(土) 西日本医科学生総合体育大会

8月4日(木)～10日(水) 徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)  
医学科、医科栄養学科、保健学科



# 私に取り組んできたグローバル化について

国際センター 特任教授 内藤 毅

徳島大学医学部卒業後、機会があれば海外医療協力をしたいと思っていたところ、縁があって1984年から半年間、ネパールの首都カトマンズに滞在し眼科海外医療協力を開始しました。いきなり初めて行く外国がネパールで、しかも一人旅であったのでとても不安でしたが、胸がわくわくする思いでした。当時ネパールでは日本の援助でネパール国立トリブバン大学医学部に附属病院が出来たところでした。それまでは医科大学がなく、医師になるためにはインドなど外国の医科大学へ行かなければなりません。ネパール政府と初めて契約した外国人医学部教官（助教授）として、トリブバン大学附属病院眼科で現地の教授と協力して診療・教育・研究に従事し、ネパールの眼科医学教育をスタートさせることができました。ネパール滞在中にはアイキャンプ（移動眼科クリニック）でネパール各地を回り、白内障で失明した患者さんの手術を精一杯行いました。アイキャンプは移動手段の乏しい僻地の患者さんにとっては無くてはならないもので現在でも盛んに行われています。

その後、徳島大学眼科に勤務しながら種々の眼科医療プロジェクトを行ってきました。2000年からはネパールの僻地での眼科医療サービスの改善のため、眼科病院建設プロジェクトに携わりました。アイキャンプでの経験を活かし、さらに充実した眼科医療を提供する事を目的としました。そして、ネパール南部のタライ平原の町に眼科病院を建設し、最終的には自主独立経営が出来るように発展させることが出来ました。このプロジェクトの間に、現地眼科医を徳島大学に招待して研修を行

いました。また、徳島大学からは合計8名の眼科医が現地で海外医療協力を直に体験し、現地の人々と友好を深めました。その中には継続して海外医療協力を行っている先生もいます。

トリブバン大学との交流は現在まで継続しており、香川前学長、玉置前医学部長のご指導とご尽力で2012年にはトリブバン大学医学部と徳島大学医学部間で協定を締結し、トリブバン大学から教員を招待し研修を行うまでに至りました。そして、毎年4名の教員が徳島大学で約1カ月間研修しています。

また、徳島大学に留学して母国に帰った眼科医の経過観察および技術支援も行っています。日本では十分な手術体験が出来ないため、現地で手術技術指導などを行っています。徳島大学で勉強した留学生在が現地で素晴らしく活躍している姿を見るのは大変うれしいことです。

近年、海外に興味を持ち将来海外で活躍したいと考える学生が増えてきており、その中で眼科臨床実習をネパールで経験したいと希望する学生たちを現地で指導しています。2014年には3名の医学生をネパールで指導しました。実際に現地の状況を見て実習を体験し、現地の医学生らと交流することにより国際感覚を養えたと思います。将来、彼らが自らリーダーシップを発揮して国際的に活躍されることを願っています。海外情勢は目まぐるしく変化していますので、海外安全情報等に留意しながら実習を行っています。今後も継続して行う予定ですので、興味のある方は参加していただきたいと思います。



ネパールでの眼科臨床実習風景



ネパールの医学生との交流

# 徳島医学会報告

## ■ 第252回徳島医学会学術集会（平成27年度冬季）

医療教育学分野 赤池雅史  
消化器内科学分野 高山哲治

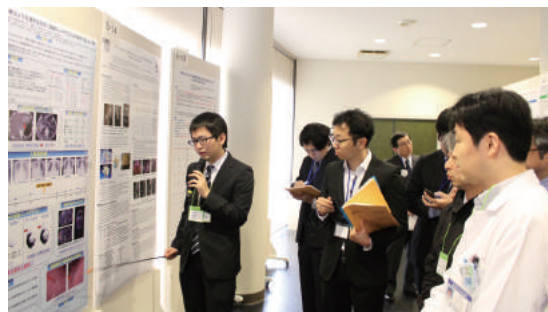
第252回徳島医学会学術集会は、平成28年2月14日（日）に長井記念ホールで行われた。本学術集会はここ数回大塚講堂で行われてきたが、現在同講堂は改修工事のため、久しぶりに長井記念ホールでの開催となった。今回は、医療教育学分野の赤池雅史教授と消化器内科学分野の高山哲治教授が担当した。会の冒頭、赤池雅史教授による開会の挨拶に続き、教授就任講演が行われた。まず、地域看護学分野の岩本里織教授による「保健師の実践能力と能力獲得の方策」、次いで、代謝栄養学分野の阪上浩教授による「脂肪細胞は悪玉か善玉か？ - 肥満・糖尿病克服を目的とした脂肪細胞研究の実践と栄養学研究への展開 -」、臨床薬剤学分野の石澤啓介教授による「サイエンスを基盤とする臨床薬剤業務の実践」の3講演が行われた。続いてポスターセッションが行われ、一般演題の40演題が2つの会場に分かれ発表された。両会場共に、今回も活発な討論に沸き、徳島医学会賞および若手奨励賞の選考審査も同時に行われた。

午後のセッションでは、第35回徳島医学会賞および第14回若手奨励賞の授与式が行われた。苜原稔会長から社会医療法人川島会川島病院泌尿器科の西谷真明先生、徳島大学大学院医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学分野の森本佳奈先生および消化器・移植外科の山田眞一郎先生に徳島医学会賞

が授与され、また上村宗範先生、麻植れいか先生、梶田敬介先生に若手奨励賞が授与された。受賞記念講演として西谷先生による「当院における光選択的前立腺蒸散術（PVP）の臨床的検討」、森本先生による「2型糖尿病患者における血糖指標と減塩がもたらす血圧低下との関連」、山田先生による「肝細胞癌症例におけるNEK2発現による腫瘍悪性度評価」の3講演が行われた。

公開シンポジウム「おなかの病気 - 最新の診断と治療 -」では、静岡、大阪から2人の外部講師を招聘し合計4人のシンポジストによる講演が行われた。静岡県立静岡がんセンター内視鏡科の小野裕之先生からは「食道・胃がんの内視鏡診断と治療」、徳島大学病院消化器内科の宮本弘志先生から「大腸がんの最新の診断・治療」、大阪市立大学肝胆膵病態内科学の田守昭博先生から「直接作用型抗ウイルス薬（DAAs）によるC型慢性肝炎患診療」、徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学の木村哲夫先生から「膵がんについて - 診断と治療のトピックス -」の講演が行われた。どの講演も消化器疾患について分かりやすく説明され、数多く参加された一般市民の方々の満足度も高かったように思う。その後、徳島県医師会常任理事、本藤秀樹先生より第36回徳島医学会賞および第15回若手奨励賞の選考結果が発表され、盛況のうちに閉会した。

本集会は今回も多数の参加者にお越し頂き、大きなトラブルなく無事終了した。会の開催にあたりご協力頂いた徳島県医師会、徳島医学会事務局関係各位に心より深謝申し上げます。



## 第62回 徳島大学解剖体慰霊祭

医歯薬事務部 医学部学務課



平成27年10月9日（金）15時から徳島大学大塚講堂において、第62回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者541人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体して下さった方々の亡き御霊6252柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

# 蔵 本 祭

## Galaxy Cluster ～輝く瞬間～

医学科5年 古川航多

第31回徳島大学蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました古川航多です。今年度も、学術講演などを含め計4日間にわたって様々なイベントを開催することができました。

今回の蔵本祭は、「Galaxy Cluster～輝く瞬間～」をテーマとしてやってまいりました。学生ひとりひとりが輝く星となって団結し、地域住民の方々にも楽しんでいただけるような蔵本祭にしたいという思いが込められています。また今年度は例年より開催日が1日少なく、大塚講堂も改修工事で使えないということでしたが、今までに劣らない蔵本祭をつくってほしいと、たくさんの方と共に奮闘してまいりました。

当日は天候が心配されましたが、大きな問題もなく何とか全てのイベントを無事終えることができました。今回は実行委員企画として、臓器移植コーディネーターの方と協力して、臓器提供の意思表示を呼びかけました。医療人として自分たちに何ができるかを考えながら自発的に活動してまいりました。今回、蔵本祭に携わってみて、大学関係者の方をはじめ

め商店街の皆様やメディアの方々などたくさんの人々に支えられて、蔵本祭が成り立っているということを学びました。直接関わることはないかと思いますが、来年度の第32回蔵本祭の成功をお祈りいたします。

最後になりましたが、第31回徳島大学蔵本祭開催にあたりご尽力くださいました関係者の皆様方にこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



## 栄養学展を終えて

第31回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年次 薄井 静流

栄養学展は蔵本祭で出展する展示の一つで、医科栄養学科の毎年恒例のイベントの一つでもあります。医科栄養学科の2、3年生から有志を募り、来場される方が親しめるテーマを考えてテーマにあった展示と料理を無料で提供するもので、医科栄養学科ならではの催し物です。

今年度の栄養学展は「精進料理」がテーマとなりました。「精進料理」とは、古来より修行僧が必要最低限の栄養を得ることを目的として、生臭物を使用せず、かつ素材の無駄なく作る料理であり、「殺生」「いのち」について考える料理でもあります。



私たちは、ご来場いただいた方々に「殺生」「いのち」について考えていただき、日々の食事に感謝の気持ちを持っていただきたいという思いを込めて「精進料理」のお弁当を提供させていただきました。

当日は多くの方にアンケートを実施し、地域の皆様や他大学の方などからも貴重なご意見ご感想をいただくことができました。そして多くの方々からの医科栄養学科への期待を知り、またお褒めの言葉も多数頂戴し、私たちは皆様の期待に応えて栄養学展を成功させることができたのだと感じましたが、同時に私達が未熟であることも感じました。この経験を活かし、医科栄養学科の名に恥じない活躍ができるよう勉学に励みたいと考えております。

最後に、栄養学展にご来場いただいた皆様、栄養学展委員と実行委員の方々と、ご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

## 模擬病院を終えて

第31回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 岩佐 俊幸

毎年、蔵本祭では、看護学専攻1、2年生の中で模擬病院委員を集め、模擬病院を運営しています。模擬病院は、学内だけでなく学外の方にも看護学専攻を知っていただく機会の一つですので、看護学専攻としても力を入れているイベントの一つです。

2015年の模擬病院では、手浴、身体測定、妊婦体験などの企画のほかに、去年から引き続きネスカフェ学園祭プロジェクトを実施し、コーヒーとお菓子を無償で提供も行いました。

今年は約550名の方に来訪していただき、かつてない大盛況となりました。さらにアンケート調査では約110名の方に回答していただき貴重なご意見をいただきました。毎年、模擬病院に来場してくださっている方、アドバイスをくださる方、他の大学や専門学校で看護学を学んでいる学生などのアンケートの回答を通じて、多くの方々から支えられ見守られていることを知りました。いただいたご意見は次回の模擬病院に反映させ、

期待に応えられるようにしなければならぬと感じました。

最後になりましたが、今年の模擬病院の委員の皆さんと協力していただいた先生方、保健所の方には大変感謝しています。模擬病院の中心となって働いてくれた2年生、協力的な1年生、的確なアドバイスをくださった先生方、休みにも関わらず協力していただいた保健師さん。本当にありがとうございました。





# 1 数字で見る医学部

～平成 28 年 3 月卒業者の進路状況～

H28.3 現在

医 学 科	
進 路 先	合計
徳島大学病院	14
徳島赤十字病院	9
徳島県立中央病院	7
倉敷中央病院	5
徳島県鳴門病院	3
大阪市立総合医療センター	3
京都大学医学部附属病院	3
九州医療センター	3
千船病院	2
高松赤十字病院	2
近畿大学医学部奈良病院	2
六甲アイランド病院	2
札幌東徳洲会病院	2
徳島市民病院	1
名古屋市西部医療センター	1
金沢大学附属病院	1
恵寿総合病院	1
筑波メディカルセンター病院	1
愛媛大学病院	1
堺市立総合医療センター	1
八尾徳洲会総合病院	1
浦添総合病院	1
川崎協同病院	1
岐阜市民病院	1
宇治徳洲会病院	1
京都府立医科大学附属病院	1
京都第一赤十字病院	1
京都第二赤十字病院	1
武田病院	1
近森病院	1
彩の国東大宮メディカルセンター	1
千葉大学病院	1
災害医療センター	1
東京大学附属病院	1
東邦大学医療センター大橋病院	1
都立駒込病院	1
佐久総合病院	1
奈良市立病院	1
明石医療センター	1
神鋼記念病院	1
北播磨総合医療センター	1
宝塚市立病院	1
兵庫医科大学病院	1
兵庫県立尼崎総合医療センター	1
三田市民病院	1
興生総合病院	1
広島西医療センター	1
安佐市民病院	1
九州大学病院	1
新行橋病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	1
WHO (インターンシップ)	1
小 計	96
未定	1
合 計	97

栄 養 学 科	
進 路 先	合計
稲次整形外科病院	1
大麻福祉の町 草の実学園/板東の丘	1
公益財団法人とくしま未来健康づくり機構	1
国立病院機構 徳島病院	1
貞光食糧工業株式会社	1

中洲八木病院	1
神戸市立医療センター 中央市民病院	1
株式会社あきんどスシロー	1
社会福祉法人共同保育の会 上野芝保育園	1
宗教法人日本南九スベテリアンミッション 瀬川キリスト教院	1
株式会社山田養蜂場	1
富士産業株式会社	1
株式会社ヤマザキ	1
株式会社オタフクソース	1
ニホンバイオフーツ製造株式会社	1
医療法人社団育生会 久野病院	1
公立甲賀病院	1
株式会社エシック	1
日亜化学工業株式会社	1
井村屋株式会社	1
国立病院機構松江医療センター	1
摂津ひかり病院	1
小 計	22
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	18
徳島大学大学院医学教育部	1
信州大学大学院	1
東京学芸大学大学院	1
九州大学大学院	1
名古屋調理師専門学校	1
小 計	23
未定	4
合 計	49

保健学科：看護学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	9
徳島赤十字病院	4
大阪大学医学部付属病院	3
大阪医科大学付属病院	3
兵庫医科大学病院	3
徳島県職員	4
大阪市立大学医学部附属病院	2
香川大学医学部附属病院	2
神戸大学医学部附属病院	2
鳴門シーガル病院	2
公立豊岡病院組合 豊岡病院	1
神戸市立医療センター	1
姫路医療センター	1
兵庫県立加古川医療センター	1
労働者健康福祉機構 神戸労災病院	1
医療法人社団 清和会 笹生病院	2
地方独立行政法人 明石市立市民病院	1
さんだ子ども発達支援センター[かるがも園]	1
舞鶴共済病院	1
山陰労災病院	1
医療法人社団 碧水会 長谷川病院	1
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院	1
労働者健康福祉機構 関東労災病院	1
西兵庫信用金庫	1
神戸市立医療センター 中央市民病院	1
吉野川医療センター	1
神戸徳洲会病院	1
阿南市職員	1
美馬市役所	1
小松島市役所	1
海陽町職員	1
高松市職員	1
尼崎市職員	1
兵庫県職員	1
松前町職員	1
北島町職員	2

淡路市職員	1
小 計	63
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	8
神戸大学大学院助産師コース	1
小 計	9
未定	4
合 計	76

保健学科：放射線技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島赤十字病院	2
医療法人康雄会 西病院	2
徳島大学病院	1
博愛記念病院	1
阿南共栄病院	1
三豊総合病院	1
松山赤十字病院	1
済生会今治病院	1
淡路医療センター	1
舞鶴共済病院	1
蘇生会総合病院	1
京都医療センター	1
天理よろづ相談所病院	1
社会医療法人敬和会 大分岡病院	1
副島病院	1
高松市職員	1
松山市民病院	1
兵庫県職員	1
西神戸医療センター	1
邦和病院	1
倉敷中央病院	1
広島鉄道病院	1
広島市立病院機構	1
大分三愛メディカルセンター	1
天神会 新古賀病院	1
今治第一病院	1
小 計	28
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	5
鳴門シーガル病院	5
未定	1
合 計	34

保健学科：検査技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
香川大学医学部附属病院	1
徳島県 JA 厚生連	1
徳島県職員	1
高松市民病院	1
田岡病院	1
鳴門病院	1
川島病院	1
なぎさ会沖の洲病院	1
たまき青空病院	1
神戸市民病院機構	1
関西医科大学附属病院	1
福井厚生病院	1
赤十字血液センター中国四国ブロック	1
赤十字血液センター東海ブロック	1
小 計	16
大 学 院 進 学	
徳島大学医学部	1
小 計	1
未定	1
合 計	18

## 寄附講座『糖尿病・代謝疾患治療医学分野』紹介

糖尿病・代謝疾患治療医学分野 特任教授 粟飯原 賢 一  
 特任准教授 湯 浅 智 之  
 技術補佐員 上 元 良 子

徳島大学大学院医歯薬学研究部糖尿病・代謝疾患治療医学分野（寄附講座）は、JA 徳島厚生連阿南共栄病院と阿南医師会中央病院の2病院が統合され、阿南医療センターに改組されることに鑑み、徳島大学と緊密に連携し、阿南地域医療の実践や研究活動を介した社会貢献、糖尿病・代謝疾患専門診療を担う人材育成および学生・研修医教育を行うことを目的として、平成27年11月1日付けで創設されました。

開設時の人員は、特任教授1名、特任准教授1名、技術補佐員1名の3名で活動を開始し、今後は公募によって特任助教を追加選任する予定となっています。

本講座の主要業務としては以下の3つの点について取り組みます。

### (1) 地域における代謝糖尿病医学教育および人材育成

- ・徳島大学医学部が国際基準に基づく医学教育認証を取得するための学外実習施設としての役割遂行
- ・糖尿病・代謝疾患診療を担う人材育成プログラムの開発と実践県内地域でのモデルとして阿南地域からの発信
- ・新専門医制度にも対応できる指導医体制の構築と糖尿病専門医不足医療機関における教育指導体制の構築

### (2) 臨床データの収集・分析と治療方法の研究開発

- ・生活習慣病モデル動物の解析や臨床サンプルを用いたバイオマーカー解析により、糖尿病・代謝疾患病態および血管合併症の発症機序解明
- ・生活習慣病患者における早期動脈硬化病変の検出と治療介入の効果検証
- ・高齢者糖尿病・代謝疾患患者に対する医療や在宅医療を含め、地域包括ケアシステムの中での新たなアプローチによる診療方法の開発

### (3) 災害時等における糖尿病・代謝疾患患者対策の推進

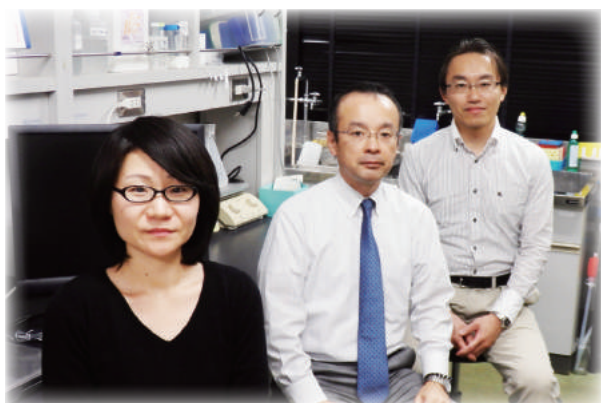
#### （阿南市の防災対策との連携）

- ・阿南地域における災害・感染症発生時の糖尿病・代謝疾患患者への支援および体制整備

糖尿病・代謝疾患治療医学分野は、徳島大学大学院医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学教室、徳島大学病院糖尿病対策センター、徳島大学糖尿病臨床・研究開発センターとも有機的な連携と相互協力を行いながら、診療・研究・学生や研修医の後進指導に努めることで、生活習慣病予防と合併症の早期発見・早期介入に邁進し、阿南地域住民はじめ徳島県民の健康増進に貢献したいと考えています。

### ■本寄附講座オリジナルHP

<http://tokudai-commu-med-dm-metabo.jp>



## 医学部サッカー一部天皇杯初出場・全医体2連覇

医学科4年次 高橋 徹

医学部サッカー部は、平成27年8月2日に行われましたエローモンキーズとの徳島県サッカー選手権決勝において2-0で勝利し、日本最大のサッカートーナメントである天皇杯・全日本サッカー選手権大会への出場を決めました。医学部単独チームとしては、山形大学医学部以来の出場という快挙を成し遂げることができました。

迎えた8月30日、広島にて広島県代表の広島経済大学と初戦を戦い、史上初の医学部1勝を目指しましたが、0-2で敗退となりました。格上の相手に対して守備を固め挑みましたが、後半序盤に2点を連取され、敗北となりました。

医学部サッカー部は徳島県国体選抜選手を2人擁しており、「医学部という枠組みにとらわれず、より高いレベルに到達する」ことを意識しながら練習してきました。天皇杯出場を達成することができた一方で、広島経済大学との対戦では格の違いを見せつけられました。選手らはこの敗戦を糧により高いレベルに到達できるよう日々の練習に励むことを誓いました。

同年9月21日、9月22日には千葉で第49回全日本医科学

生体育大会王座決定戦が開催され、8月の西日本医科学学生総合体育大会（西医体）に連覇した本校は西医体優勝校として出場し、2年連続で全国制覇することができました。

初戦の千葉大学戦は前半に相手を圧倒し3-1で終えるも、後半は相手に攻め込まれる展開でさらに1点を返されますが、なんとか逃げ切り3-2で勝利しました。

決勝戦は東日本チャンピオンの信州大学との試合となりました。常に相手に先行される苦しい展開でしたが、後半残り10分に2-2に追いつくと、試合終盤にはハーフウェイライン手前からの超ロングシュートが決まって3-2で劇的な逆転勝利を収め、全国大会連覇を達成することができました。

医学部サッカー部は現在、今年度の天皇杯本大会出場と史上初となる医学部1勝を目指しています。また、平成28年8月には徳島大学主管で西日本医科学学生総合体育大会が開催されます。40年に一度の地元開催での優勝を目指し今後も練習に励んでいきますので、引き続きのご声援よろしく願いいたします。



## 医学部柔道部全医体初優勝

医学科5年次 荒川 大輔

まず、徳島大学蔵本柔道部の昨年度の主な結果から述べさせて頂く。男子団体戦は中国四国医歯薬大会、西日本医科学学生総合体育大会（西医体）、そして全国医科学学生体育大会王座決定戦（全医体）にて優勝した。西医体は二連覇、全医体は念願の初優勝である。また、関西医歯薬大会では準優勝、常三島の部員と共に出場した四国国立大会では三連覇を成し遂げた。

やっとの思いで西医体二連覇を達成してから一か月余り、去る9月20日に行われた全医体には東西三校ずつの6校が参加した。予選では自治医科大学および群馬大学と対戦、両校ともに実力者ばかりだったが、いずれも5-0で勝利。決勝戦は東医体二位の東海大学との対戦となった。1-1で迎えた中堅戦、両校のエース対決。医学科二年に在籍する双子の仁紙兄弟は減多に負けることがないのだが、この一戦は相手（全日本ジュニアの重量級で入賞していた選手！）に軍配が上がる。その後副将戦で勝利し2-2にもつれ込み、大将戦では粘りに粘って一本勝ち、優勝を決めた。

これは西医体当日、応援に来られたOBの先生方を交えての懇親会にて「本日のMVP」と称し本吉（医学科四年、現キャプテン）に話を振った時のコメント（その日、決勝戦で見事な一本勝ちを収めた）。「本当のMVPは一番実力のある仁紙兄弟で、二人が勝ってくれているからこそチームで勝てたと思います。また、この勝利は決してここにいる部員だけのものではなく、いつも一緒に練習している蔵本と常三島の部員、さらには教えて下さる先生方や応援して下さる方々も含めてみんなで勝

ち取った勝利です」

さて、優勝の余韻に浸る時間などどうの昔に終わり、気持ちは2016年へ。徳島大学医学部柔道部は西医体だけではなく全医体の主管も引き受けることになった。無論、運営も試合も勝ちに行くつもりである。

最後に、今回の全医体遠征にあたりOB並びに徳島大学の関係者の皆様からは多大なご寄付を頂きました。この場をお借りして御礼を申し上げます。今後とも何卒よろしく願い申し上げます。



## 新任教職員あいさつ



寄附講座 糖尿病・代謝疾患治療医学分野 特任教授 栗飯原 賢一

平成 27 年 11 月 1 日付けで、糖尿病・代謝疾患治療医学分野（寄附講座）特任教授に就任いたしました栗飯原賢一と申します。徳島県出身で、徳島大学医学部医学科を平成 3 年に卒業しました（第 37

期生）。同年に徳島大学医学部附属病院第 1 内科に入局し、以後同院救急部・集中治療部を経て、数年間本学関連病院での臨床研修を行い、平成 11 年東京大学分子細胞生物学研究所研究員、平成 18 年より本学 HBS 研究部生体情報内科学 助教・講師、平成 22 年文部科学省研究振興局学術調査官（併任）、平成 27 年本学医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学准教授を歴任してきました。

これまでは、内分泌・代謝領域での臨床、学部学生や研修医の指導を行ってきた他、動脈硬化症の予防・進展における新規分子の臨床的意義の解析や、心血管内分泌・代謝領域における臨床と遺伝子改変動物を用いた病態基盤研究に従事してきました。

今回の着任講座では、従来通りの本学での診療・研究活動に加え、阿南地域での糖尿病・代謝疾患の診療支援と多施設共同での臨床研究、学部学生や研修医指導を産官学連携して、精励していきたいと思っております。また本講座の業務遂行にあたっては、診療科や部署を超えた多くの方々に、ご指導・ご支援を賜りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H27. 11. 1	採用	湯浅 智之	糖尿病・代謝疾患治療医学
H27. 12. 1	昇任	福田 昇司	脊椎関節機能再建外科学
H28. 4. 1	昇任	滝沢 宏光	胸部・内分泌・腫瘍外科学
H28. 4. 1	昇任	安倍 吉郎	形成外科学

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H28. 4. 1	昇任	遠藤 逸朗	血液・内分泌代謝内科学
H28. 4. 1	昇任	添木 武	循環器内科学
H28. 4. 1	採用	長町 顕弘	脊椎関節機能再建外科学
H28. 4. 1	昇任	千葉 進一	メンタルヘルス支援学

## 退職者ご挨拶



微生物病原学分野 教授 足立 昭夫

平成 28 年 3 月 31 日付で定年退職いたしましたので、一言ご挨拶申し上げます。平成 7 年 12 月に京都大学ウイルス研究所から徳島大学医学部ウイルス学講座に赴任しました。以来、20 年あまりにわたり徳島大学に大変お世話になりました。ウイルス学の基礎研究の現場からの赴任であったため、医学部での教育や業務に大きな不安を抱えていました。当時の医学部長の「研究を大いに頑張ってください」との有難いお言葉を頼りに、自分なりに種々の活動に取り組んでまいりました。今、振り返ると、研究と専門性を活かせる領域での大学業務については合格点を与えられると思っております。「教育」については、医学部に対してどの程度の貢献ができたのか明確な自己評価ができません。し

かしながら、「教育活動」が自らの視野を広げ研究にも有為であったこと、多くの若者とコミュニケーションがとれたこと等、私にとっては計り知れないメリットがありました。私と教室員が企画、実践したウイルス学の講義や実習が医学部生にも有用であったことを願ってやみません。

私の徳島大学への赴任以降、組織・講座名等が次々修正・変更され、退職時の所属は、徳島大学大学院医歯薬学研究部微生物病原学分野でした。この間、私は一貫して HIV/SIV の基礎研究に励んできました。本分野の研究スタッフと国内外の多くの共同研究者と共に、基礎ウイルス学の方向性を打ち出せたと自負しております。本分野と徳島大学のますますの発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



医療情報学分野 教授 森口 博基

平成 12 年、当時の徳島大学医学部附属病院に医療情報部が新設され、平成 13 年 4 月、高知から赴任し、本院初めての電子カルテを導入しました。その後、竣工したばかりの中央診療棟 5 階に医療情報部を移設、病院情報システムの運用体制強化のため大学病院初のプライバシーマーク制度の導入を行い、医療情報部を病院情報センターに改組しました。また、地域の医療機関と大学病院間のネットワークを整備し、情報共有による診療支援が行えるようになりました。教育面では PBL の電子化や e-Learning の

導入などに取り組みました。平成 20 年には医療情報学分野が誕生し、モンゴル初の医療情報を担う留学生を受け入れるなど、3 名の博士号と 6 名の修士号が授与されました。新設された部の運営や講座設立、情報化による安全で効率的な医療、教育のインフラ整備に関わらせていただいたことは医師として貴重な経験でしたが、何とか今後引き継げる体制を整えることができたと思っております。15 年に渡り、情報化を通じて蔵本、常三島地区のいろいろな分野の先生方、そして、業務上、総務、医事課や調達など事務の方々にも大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



食品機能学分野 教授 寺尾 純二

平成28年3月末をもって徳島大学を退職することになりました。平成9年10月医学部栄養学科に助教授として赴任以来、18年6か月が過ぎたこととなります。この間お世話になりました諸先生方、職員の方々に厚く御礼申し上げます。私は農学部出身でありその後も農水省研究所に勤めていましたので、医療系の学部が集中する蔵本キャンパスは新鮮な雰囲気を私に与えてくれました。赴任当時の栄養学科は未だ改修前の古い学科棟でしたが、私が最初の学科長を務めた平成15年に学科棟は現在の建物に改修されました。改修棟設計の調整や仮住まいへの移転等の問題で毎日学内を駆け回りました。また、同時期に蔵本キャンパスの大学院部局化構想が本格化し、当時の曾根医学部長、三宅歯学部長、際田薬学部長とともに栄養学研究科

を代表して文部科学省を何度も面会訪問したことも懐かしい思い出です。諸先生方や職員方のお蔭で、新装となった栄養学科棟への移転は無事に終了し、部局化は順調にスタートしました。今振り返ると大きな荒波を乗り越えたように思います。その後栄養学科は武田教授をリーダーとするCOEプログラムが採択され、私もこのプログラムに参加したことを契機に蔵本キャンパスの先生方と研究交流を重ねてきました。2回目の学科長を務めていた平成23年に次の大波が押し寄せました。大学受験者数減少を目の前にして、全国に林立する管理栄養士養成施設校の中で本学栄養学科の卓越性を如何に確保するかということです。平成24年の疾患治療栄養学分野の設置と平成26年の医科栄養学科への改組が今後の飛躍に結びつくことを願っています。最後に、徳島大学医学部の益々の発展をお祈りいたします。



医歯薬事務部長 川上 哲

昭和55年に採用されて36年間、生命科学のメッカである蔵本地区で定年を迎えられたことを、とても嬉しく思います。関係の先生方、事務の方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。長い勤務を振り返ってみますと、その時その時を乗り越えるのが精一杯で、成功もあれば失敗もあり、褒められたり怒られたり、自信がついたり自信をなくしたり、本当に喜怒哀楽の繰り返しだったように思います。けれども、後悔はしていません。何の功績も足跡も残せませんでした。けれど、ひとつだけ貫いて実践してきたことがあります。とにかく、仕事を大事にするあまり、人をないがしろにしたり、

傷つけてしまったりすることがあります。仕事も大事ですが、仕事をしているのは生身の人間です。だからこそ、私は「人を大事にしよう」、そう思ってやってきました。大切なのは、自分が何をよりどころにして仕事に臨むか、ということだと思います。医療人を目指す学生さんは、これから国家試験というハードルがありますが、合格は決してゴールではありません、スタートです。目標を持って努力し達成する、そしてまた、次の目標を持って努力し達成する。人間の成長は、この繰り返しの中にこそ、答えがあるのではないのでしょうか。『為せば成る、為さねば成らぬ何事も』です。

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

岡 奨 学 賞

飯 藤 大 和 (看護技術学分野 助教)  
 富 田 知 里 (栄養生命科学教育部 博士後期課程1年)  
 \*医学部、疾患酵素学研究中心、疾患プロテオゲノム研究中心において、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

■第252回徳島医学会学術集会(平成28年2月14日)において、第36回徳島医学会賞及び第15回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

徳島医学会賞

大 学  
 岸 誠 司 (徳島大学病院検査部)  
 「新規細胞エネルギー代謝スクリーニングに基づいた急性腎障害予防薬/治療薬の探索と開発」  
 医 師 会  
 蟻 井 岐 美 (徳島市民病院 がんセンター)  
 「[あんしんカード]を用いたがん患者の救急医療体制の構築と病病・病診連携の試み」

若手奨励賞

布 村 俊 幸 (徳島大学病院 卒後臨床研修センター)  
 「徳島大学病院脳卒中センターに搬送されたrt-PA 静注療法の「Drip and Ship」症例における検討」  
 中 島 大 生 (徳島大学病院 卒後臨床研修センター)  
 「化膿性脊椎炎に対する鏡視下椎間板ヘルニア摘出術(PED)の術後」

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞 六車直樹 (消化器内科学分野 准教授)	保健学優秀教育賞 今井芳枝 (臨床腫瘍医療学分野 助教)
栄養学優秀教育賞 堤 理 恵 (代謝栄養学分野 助教)	※医学科、医科栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

Best Teacher of the Year 2015賞

医 学 科 九十九 伸 一 (生体防御医学分野 助教)	医科栄養学科 向 井 理 恵 (食品機能学分野 助教)
三宅 一 央 (生化学分野 助教)	保健学科 井 村 裕 吉 (医用画像解析学分野 講師)
西 京 子 (卒後臨床研修センター 講師)	※Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2015 受賞者  
 後列左から：九十九伸一、今井芳枝、六車直樹、堤理恵、三宅一央  
 前列左から：向井理恵、荻原医学部長、西京子(敬称略)

## ◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

## 中 田 賞



第62回医学科卒業生(平成28年3月卒業)

赤 池 瑠 子

この度は名誉ある中田賞をいただき、大変光栄に思います。六反一仁教授をはじめとする徳島大学の先生方、職員の皆様、青藍会の皆様のご支援のおかげで、基礎研究、海外留学、MD-PhD コース進学等、やりたいことにいつでも手を伸ばせる環境で充実した大学生活を送ることができました。また、いつも支えてくれた家族にも感謝しています。今後もこの賞を励みとし、医学を学び続けることができることに感謝し、精進して参ります。

## 見 玉 賞



第49回栄養学科卒業生(平成28年3月卒業)

相 田 隆 道

入学時から目標であった名誉ある見玉賞をいただき、大変光栄に思います。この賞を頂けたのも、ご指導いただいた先生方、先輩方、友人などたくさんの方々のおかげです。心より感謝いたします。今後もこの受賞を励みとし、栄養学科の卒業生として、社会に貢献できるよう、自分らしく精進して参ります。本当にありがとうございました。

## 看護学専攻賞



第11回看護学専攻卒業生(平成28年3月卒業)

堤 彩 香

この度は看護学専攻賞という素晴らしい賞を頂き大変光栄に思います。4年間ご指導下さった先生方をはじめ、支えてくれた家族、友人に心から感謝しております。大学生活では、小学生の時から夢であった看護師になるため日々勉学に励んできました。また、一人暮らしやバイトといった初めての体験も、よい刺激を受けながら過ごすことができました。この4年間で学んだことを忘れず、看護師として日々努力して参りたいと思います。

## 放射線技術科学専攻賞



第11回放射線技術科学専攻卒業生(平成28年3月卒業)

多 田 佳 寿 美

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞をいただき、大変光栄に存じます。4年間温かくご指導くださった先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人に心から感謝致します。大学生活は様々な経験を積み、充実した日々を送ることができました。この賞を励みとし、医療に貢献できるよう日々精進して参ります。

## す だ ち 賞



第11回検査技術科学専攻卒業生(平成28年3月卒業)

有 働 仁 美

この度はすだち賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に感じております。4年間ご指導くださいました先生方をはじめ、友人、家族の支えにより充実した大学生活を送れたこと、深く感謝しております。今後もこの賞をさらなる励みとし、理想とする臨床検査技師に少しでも早く近づけるよう日々努力して参りたいと思います。

## 医学部優秀学生賞

栄養生命科学教育部博士後期課程	1年次：内 田 貴 之
医 学 科	4年次：宇 内 和 明
保健科学教育部医用情報科学領域	2年次：武 田 晋 作
保健学科 検査技術科学専攻	4年次：田 村 元 幹
保健科学教育部看護学領域	2年次：岡 本 真 実 子
保 健 学 科 看 護 学 専 攻	4年次：小 熊 坂 祐 太
保 健 学 科 看 護 学 専 攻	4年次

徳島大学看護子ども応援団(KKO)：代表者  
中 島 成 美

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。(注：年次は選考時のものです。)




徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。  
(平成26年3月26日)

- 認定評価機関  
独立行政法人大学評価・学位授与機構
- 認証期間 7年間  
(平成26年4月1日～平成33年3月31日)

## 編集後記



昨年4月号の編集後記では、日本ラグビーの改革について書いた。実は、その改革の成功については半信半疑であったが、その結実した結果は今や日本の誰もが知っているといってもいい。スポーツつながりで、今年はオリンピックの年である。4年に一回というサイクルは重みがある。うまくいくためには、良い巡り合わせも必要となる。すべての新入生が、徳島大学に入学したことが良い巡り合わせだったと思えば4年あるいは6年後に卒業することを願う。(安友康二)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会  
広報委員 森口博基(委員長)、安友康二、赤池雅史、西村匡司、酒井 徹、大塚秀樹、川上 哲、三木将裕、野口実和、小野川晃太

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。  
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL: http://www.tokushima-u.ac.jp/med/